



時代に即した ルールを創る

総合通信基盤局電波部
電波政策課課長補佐

秋山 真二 AKIYAMA Shinji

平成 25年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成 26年 4月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課
新世代移動通信システム推進室
平成 27年 8月 同 情報流通行政局情報流通振興課
情報セキュリティ対策室
平成 28年 7月 同 総合通信基盤局総務課総括係長
平成 29年 7月 同 情報通信国際戦略局技術政策課研究評価係長
平成 29年 9月 同 国際戦略局技術政策課研究評価係長
平成 30年 4月 同 国際戦略局通信規格課開発係長
令和 元年 7月 同 国際戦略局国際政策課課長補佐
令和 2年 8月 現職

生活に溶けこむICT

ある朝のひとつをイメージしてみてください。

①目覚まし時計(電波時計)のアラームで起き、
②テレビ(放送)で③天気予報(気象レーダー)を確認し、
④スマートフォンでメールをチェック。家を出てコンビニに立ち寄り、
⑤QRコード決済で朝食を購入。駅に向かい、
⑥非接触型ICカードで改札ゲートを通り、電車で通学する。

このような日常の一部にも、ICT(情報通信技術: Information & Communications Technology)が数多く利用されています。総務省では、こうしたICTの利活用のルール整備や促進を行っています。

ICTの利活用のルール整備

私は現在、電波に関する法律を扱う部署にいます。先ほど例に挙げたようなテレビやスマートフォンをはじめ、多くの機器が電波を利用しており、その際は電波法というルールに則っています。ICT分野は、技術進展等が早いことから、それに合わせてルール(電波法)を見直す(改正する)必要があります。

例えば、令和4年には、①電波に係る技術進展

等に対応するための電波の有効利用の度合いを評価する仕組みの変更や、②今後の電波の利用見込み等を踏まえた電波を利用する際に支払う費用(電波利用料)の料額の変更を行いました。

改正された法律が実際に利用されているところを見ると、自分の取り組んだ成果が本当に反映されているのだと感ずることができます。

これからのデジタル社会を支える皆さんへ

総務省に少しでも興味を持っていただいている皆さん、「これまで」ICTについて勉強したことがなくても大丈夫です。私も入省するまでICTについて勉強する機会はありませんでしたし、職場にも様々な学科を卒業した同僚がいます。

ICTは生活の中に溶けこんでおり、皆さんも自然と触れていますので、下地は既にあると思います。あとはICTに興味を持ち、総務省で取り組みたいと思う「これから」が大事です。

皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています!



国際イベントにおける対応



休日は妻と山に行きリフレッシュ

放送は時代遅れ?

一昔前まではコンテンツ視聴といえば地上波放送番組が主流でした。しかし、今ではインターネットを介して視聴時間を気にせずに無限のコンテンツを見ることが出来る時代です。放送なんて無くなっても困らない、と思っている人もいるかもしれません。一方、地上波放送にも優れている部分があります。国民的なイベント時や災害発生時などに、いち早く情報を得ようとテレビを付けた経験が皆様にもあるのではないのでしょうか。また、ネット上でフェイクニュース等のデマ情報が問題になる中、放送に対する信頼性というのも注目されつつあります。正確な社会情報を広範囲に瞬時に届けることが出来るツールである放送を無くしてしまってもいいのでしょうか。このように放送を巡る環境が大きく変化する中で、放送制度はこのままでいいのか、総務省では議論がまさにスタートしています。

出会いの数だけ思いがある

総務省の内部の人だけで完結する仕事はほとんどありません。長年その分野に携わっている沢山の企業の方々や大学の先生方が関わり、支えていた

いています。特に、私たちは2~3年程度で定期的な異動があるため、初めての分野に飛び込むことも多いのですが、新たな業種の方々との出会い議論を交わすことが出来るのは大きな刺激になります。

一方、沢山の方々に関わるということは、その人々の数だけの仕事に対する思い(主張)があるということです。そして時に、その主張は大きくぶつかります。前段で話しました、サービスを拡大したいインターネット通信陣営 vs 安定した情報配信を守る責務がある放送陣営はまさにその例です。どちらの主張も間違っていない、その中でどのように双方が納得できる折り合いをつけるのか、日々頭を悩ませつつもやりがいを感じながら業務に励んでおります。

総務省を目指すみなさまへ

固定電話・携帯電話・スマホと人々の情報通信ツールは短いスパンで進化してきました。放送もデジタル化・BS/CSの4K化と進化しています。そして、それらの普及の裏には日本全土で円滑に使えるように制度や技術規格などの基盤を作った総務省の働きがあります。数十年後、自分が基盤作りに関わった新たな情報通信ツールを人々が使っていると想像してみてください。ワクワクしませんか?少しでも興味を持った方は、インターンシップや説明会

にいらしてください。皆様と一緒に働ける日がくるのを楽しみにしています。



久々の同期ランチ



趣味の観劇!職場から近いので仕事終わりに行くことも

情報通信の 未来を考える

情報流通行政局放送技術課
課長補佐

川崎 祥子 KAWASAKI Shoko

平成 27年 4月 総務省採用
同 情報流通行政局放送技術課
平成 29年 7月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課
新世代移動通信システム推進室
平成 30年 4月 同 国際戦略局宇宙通信政策課国際係長
令和 3年 6月 同 国際戦略局総務課主査
令和 3年 7月 同 国際戦略局国際政策課主査
令和 4年 6月 現職

